戦略的に「あまり変えないこと」の強さ、素晴らしさ

TOYOTA ESTIMA HYBRID AERAS PREMIUM-G E-Four

■テキスト＝有岡 志信（SAフォトワークス） ■Photo＝川村 勲（川村写真事務所）
■取材協力＝札幌トヨタ 月寒支店 TEL(011)851-6121

■ プロフィール

4年ぶり3度目のマイナーチェンジ

2006年1月に登場した3代目エスティマ、今回のマイナーチェンジは2012年以来4年振り3度目となる。

いつの時代も、ミニバンのカテゴリーにおいてエスティマがいてくれた。「天才タマゴ」というキャッチコピーで登場したのが1990年。流線形の柔らかいスタイリング、専用設計のボディは、床下に横倒しにエンジンを積む世界初のレイアウトで広い室内と安定した高速性能を実現してヒットを飛ばし、実に9年もの間、ミニバン業界をけん引してきた。

2代目に引き継いだのは、2000年になってからだ。その2代目は5年間もの間、スタイルを変えることなく維持してきた。

先進のテクノロジーを詰め込んだハイブリッド車、水素を燃料とした「ミライ」など革新的なクルマを送り出す一方で、スタイリングに於いてあまり変えないことの大切さをエスティマに託している。クルマの価値を創出しているのだ。この絶妙なバランス感覚こそが、さすがに「世界のトヨタ」であるゆえんだ。

スタイリング、より先進性・洗練さを強調

今回のマイナーチェンジの特徴を見ていく。

一番の注目点は顔つきだ。ずいぶんと、シャープに、そして精かんな印象を受ける。特にヘッドライトが薄くなり、鋭角で切れ長なクールビューティー。フロントグリルの下部はワイド感があり、バンパーの角に切れ込みを入れることによって、引き締まった印象を与える。ヘッドライト周辺にはLEDのイルミネーション装飾を施し、おしゃれな感じを演出している。下部にある六角形のフロントグリルは、トヨタ車のデザインコンセプトにも表れている。エスティマのボディとも、非常に相性が良い。

エスティマは、丸みを帯びた流線形のスタイリングに愛好者が多いのだ。今でこそ、アルファードやヴェルファイアの「四角形」が、トヨタ車のミニバンを代表する存在になった。それなら、十分にミニバン界をリードしてきたエスティマに、そろそろ引退を願ってもよさそうなものだ。しかし、エスティマには、長年の愛好者も多い。トヨタは、月間の新型エスティマの販売台数をシリーズ2，200台としている。初代のエスティマを購入いただいたお客さまの多くは、2代目や3代目のリピーターになるという底堅さがある。現行車を含めて、ユーザーの保有台数は全国40万台に達する。やはり、このスタイリングでなくてはダメなのだ、というユーザーが実に多い。だからこそ、ロングスパンでのモデルチェンジ、というのも納得できる。エスティマにとって、あまり変えないことが、新たな戦略となるのだ。

ミニバンとして初の2トーンカラーが3色設定されている点も見逃せない。選択肢が広がり、より幅広い世代からの支持を受けそうだ。主なツートンカラーは次の通り。これに単色系が7色あり、計10種のカラーを選択できる。

- ブラック×レッドマイカメタリック
- ブラック×ダークシェリーマイカメタリック
- ブラック×アイスチタニウムマイカメタリック

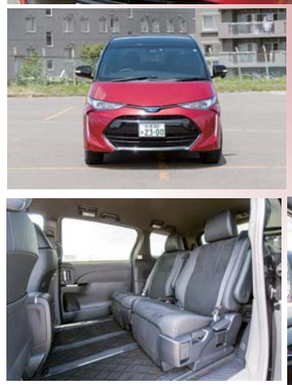
車種をアエラス1本に絞って効率化

今回のマイナーチェンジから、車種体系をアエラス1本に絞って効率化を図った。V6の3・5L版を廃止、直4の2・4Lのパワーユニットをベースにし、2・4Lガソリン車、ハイブリッド車をラインナップした。

同時に、パワーユニットの動力性能や燃費も進化した。根強いユーザーに支えられ長く人気が続いているエスティマ、なんてったって、コストパフォーマンスの良いクルマである。

高度な安全装備機能を標準装備

「Toyota Safety Sense C」が標準装備された。トヨタは2017



主要諸元：（エスティマハイブリッド4WD AERAS PREMIUM-G）

- 全長×全幅×全高／4,820×1,810×1,760mm
- ホイールベース／2,950mm
- トレッド／前：1,545mm 後：1,550mm
- 車両重量／1,990kg
- 最小回転半径／5.7m
- エンジン／2,362cc 直4 DOHC
- エンジン最高出力／150ps／6,000rpm
- エンジン最大トルク／19.4kgf・m／4,000rpm
- モーター型式／交流同期電動機（フロント2JM・リア2FM）
- モーター最高出力／143 ps＋68 ps
- モーター最大トルク／27.5kgf・m+13.3kgf・m
- JC08モード燃費／18.0㎞／ℓ
- ミッション／電気式無段変速機（CVT）
- ブレーキ／前／Vディスク　後／ディスク
- タイヤサイズ／215/60R17
- 駆動方式／4WD
- 乗車定員／7名
- 車両本体価格（札幌地区）／4,957,887円（消費税込）

ディーラーメッセージ

札幌トヨタ月寒支店
次長兼新車課長
野原　毅さん

エスティマは本当に息の長いクルマで、多くのお客さまに愛されています。今回のマイナーチェンジは、外観でいえばフロントグリル周辺が、非常にすっきりとなってシャープになりました。さらに、安全機能の「Toyota Safety Sense C」を標準装備しています。ユーザーはエスティマからエスティマに乗り換えるケースがとても多く、中には初代から3代目まで乗り継いでこられたお客さまもいるほど、丸みを帯びた外観などにも好評を頂いております。

年までに、自動ブレーキシステムを全車に標準装備することを目標にしている。その一環でエスティマのマイナーチェンジで採用に至った。その機能は次の通り。

1・プリクラッシュセーフティシステム
先行車をレーザーレーダーと単眼カメラで検出。10～80㎞の速度域で作動し、「警報」→「ブレーキアシスト」→「自動ブレーキ」の3段階で衝突を回避・軽減を行う。

2・レーンディパーチャーアラート
車線逸脱を車載の単眼カメラで監視を続けており、ウインカー動作を行わず、車線を逸脱する可能性がある場合、ブザーとディスプレイ表示による警報で注意喚起をするシステム。作動範囲は幅3m以上の車線を時速50㎞以上で走行しているときに機能する。

3・オートマチックハイビーム
ハイビームとロービームを自動で切り替えてくれる機能。対向車がくるたびに、ハイとローの切り替えは、非常にめんどうになる。手動作業のわずらわしさを軽減してくれる優れた機能だ。

「Toyota Safety Sense C」搭載車はシエンタ、ヴィッツ、カローラアクシオなど。エスティマとの価格差が100万～200万円ほど下の車種に搭載されている。上級機能に「Toyota Safety Sense P」（ランドクルーザー、プリウスに標準装備）があり、レーダーがミリ波に変更され、歩行者の検知も可能になる。さらに雨、霧、雪にも強く幅広い状況で活用できる。車間距離の自動制御もできるクルーズコントロール機能もつく。

■インプレッション

走行性能と快適性が高次元で融合

エスティマのステアリングを握ってみた。車重が2t近くあるが、初速からストレスフリーで快適なツーリングが始まる。

シートの快適的、居住空間の広さなどミニバンには、乗用車にない魅力がたくさん詰まっていることをあらためて実感。2列目シートを後部いっぱいにまで下げると、非常に広大な足元スペースができあがる、オットマン機能があり、シートを倒してそのまま足を伸ばせば簡単に仮眠スペースができあがる。

「新型エスティマハイブリッドの受注台数は、6月12日の発売から7月11日までの1ヶ月間で、月販目標台数700台の7倍にせまる約4，700台と好調な立ち上がりとなっている。40代を中心に、30代以下、50代以上のお客様も含め幅広く受け入れられている（TOYOTA News Release）」

価値観の高いエスティマの動向を今後も注目していきたい。